

学校運営協議会だより

令和3年1月29日

清和小学校学校運営協議会って何？

「鈴鹿型」コミュニティ・スクールと学校運営協議会

「コミュニティ・スクール」は、学校・家庭・地域が一つになって、よりよい学校づくりに取り組んでいく仕組みです。

鈴鹿市ではすべての小中学校を「コミュニティ・スクール」に指定し、学校運営協議会を中心とした「特色ある学校づくり」を進めています。

「学校運営協議会」では、保護者や地域の方等の委員で構成され、よりよい学校づくりの当事者として、それぞれの強みや知恵を出し合います。

今年度の清和小学校の学校運営協議会は、昨年度に引き続き、鎌田正行委員長（地域関係者・清和公民館館長）をはじめとする11名の委員と事務局2名で構成され、年6回の会議をもち、協議が行われています。

第5回学校運営協議会より

第5回の学校運営協議会は、令和3年1月15日（金）15：30～清和小図書室にて行われました。
おもな協議内容を紹介します。

1 子どもたちの様子について

(学校から)

- ・新型コロナが依然流行しているが，子どもたちは元気に過ごしている。マスク・手洗い等を引き続き指導中。
- ・3学期が始まり，早く生活リズムを取り戻せるよう，日々指導している。

2 令和2年度学校評価について

[本校の課題（3点）：家庭学習の充実，早寝早起き，自己肯定感の向上]

- ・学校アンケート（児童・保護者・教職員・地域）結果（「学校だより」参照）の，要改善項目への方策を講じる。
- ・児童の基本的な生活習慣の定着，地域と協力した教育の充実を図る必要がある。
- ・アンケート結果で，学年ごとの結果提示も必要なのではないか。質問項目間の回答結果の相関関係を調べるのも一つの方法である。
- ・学年ごとの回答結果にバラつきがあった場合には，教職員間で話し合うことが大切。
- ・保護者アンケートで「学校運営協議会の活動を知っていますか。」の肯定意見が低い。啓発推進が必要。

3 鈴鹿市教育委員会アドバイザーより

- ・地域内の有形・無形の文化財にはどんなものがあるか。地域の行事や風習を知り，学ぶことは文化の継承につながる。
- ・学校運営協議会の役割を繰り返し発信する。評価・議論内容を次年度の活動に活かし，具体的に反映していくことが学校運営協議会の周知と活性化をうながす。